100年前に発表されていた
神戸・兵庫産糞虫についての文献

高橋 寿郎

最近筆者は東京の Bauer & Sato Japan 社から100年前(正確にいうと99年)に出版されたこの文献を入手することが出来た。

H.D'Orbigny. Synopsis des Onthophagides Paléartiques

Extrait de L'Abeille, tome XXIX, 1898.


即ち、バリで1864-1945年の間出版されていた機関誌で、そのXXIX巻特別号になるのではと考えるが、どなたか御教示頂ければ幸いである。全篇で138p.、収録されている種は147種(Caccobius 10種, Onthophagus 130種, Liatongus 2種, Oniticiellus 5種)であり、これらを検索表形式で記載文としたもので、図は一つも入っていない。しかし、日本産も多く含まれており、さらに種によっては神戸、兵庫の産地名のハッキリと示されているのがある。即ち、神戸産糞虫の文献としては筆者にとっても初めて見ることの出来た文献であると同時に、この文献によって神戸産が初めて示された種もあるわけで、此処にそれらを紹介してみたいと考えた。

V.Balthasar が1963年に出版した Monographie der Scarabaeidae und Aphodiidae der palai-arktischen und orientalischen Region 2 の中で

は勿論日本産も含まれているのであるが、分布と
か産地については Japan とか Japan(Honsyu) と
の表現はあるが、具体的な産地を日本産で示した
ものはあまりない(例えば, Onthophagus ohbayashi Nom. は Hiroshima と産地を示しているが・

分布を大きく把握しようとしていることは、
勿論それだけでよいのであるが神戸・兵庫産と
してみた場合はものたりた。それでもこのシリ
ーズの (1) p.217 にて Gynnoleurus stipes
japonicus Balth., einem exemplar aus Japan:
Mukogawa, Landbezirk Hyogo(Hyogo-ken)
beschriebe (Holotypus) といった記録が入っていて
驚かされたりする。

さて、ここで紹介する H.D'Orbigny の文献で
神戸・兵庫とはっきり産地の示されているものを
次に記しておく。9種あり、そのうち6種がこの
文献で初めて神戸・兵庫の産地が示された種であ
り(番号をまるで囲んでいる種)、その他はこの文
献発表までに神戸・兵庫の記録がある種で、その
記録をこの処では引用したものである。

神戸・兵庫とはっきり産地を示された種のみ
次に記しておく。

p.129. 4. Caccobius microcephalus Har. = C. je-

nanoensis Har.

マエカドコエンマコガネ
Japon: Tokio(Hilgendorf, dáprés
Harold), Yokohama(Mellotée, coll. Bedell), Kobe(coll. P.Nadar!)　

p.130. 6. Caccobius brevis Waterh.

ヒメコエンマコガネ
Japon: Hiogo, Ohosaka―(D'apriès
la description de Waterhouse)

* 兵庫県甲虫相資料・317
1996

p.144. Ə. Onthophagus ater Waterh.
クロマルエンマコガネ

p.145. Ə. O. lenzi Har. = O. lenzi Har.
カドマルエンマコガネ
Japan: Yeso(dâprés Harold), Hiogo(dâprés Schönfeldt), Kobe (coll. P. Nada!), Cofee, Chine.

p.146. Ə. O. nitidus Waterh.
ツヤエンマコガネ
Japon: Hiogo(dâprés Waterhouse), Kobe(coll. P. Nada!), Nagasaki (dâprés Waterhouse), ile Ishigaki du groupe des iles Yaeyama (coll. R. Oberthûr!)

p.146-147. Ə. O. vidius Har.
マルエンマコガネ

p.147-148. Ə. O. atripennis Waterh.
コブマルエンマコガネ
Nord de la Chine: Pekin
Japan: Hiogo(coll. R. Oberthûr!), Kobe(coll. P. Nada!, Kiou-Siou (dâprés Waterhouse), ile Ishigaki du groupe des iles Yaeyama (coll. R. Oberthûr, var. apicetinus seulement!)

p.165. 47. O. ocellatopunctatus Waterh.
アラメンマコガネ

p.197. 98. O. japonicus Har.
ヤマトエンマコガネ
Japon: Yokohama(coll. Bedel!), Hiogo(dâprés Waterhouse), Ohsaka (dâprés Waterhouse)

以上のうち、現在兵庫県下にいるのかいないのかわからない種が2種あり、他の種は Coccobius 属の2種が終わり採集記録の少ない種であるが、他の Onthophagus 属の種はほら現在でも注意すれば得られる種と考えられる。

100年前にこのような神戸の糞虫についての知見があったことに驚いている。（1995-X 記）

(TAKAHASHI TOSHI 神戸市兵庫区氷室町1-44)

ムナクホハナカムキリの
音水渓谷での記録

田中 稔

ムナクホハナカムキリ Xenophyrama purpureum Bates は、原色日本甲虫図鑑(IV)によれば「古い体のしくみをもつ1属1種、・・・個体数は少なく西南日本及び九州に点々と分布する・・・」となっているが、本種を筆者の実弟、田中勇氏が音水渓谷で採集しているので記録しておく。

1994 兵庫県宍粟郡播磨町音水渓谷 22.VI.

同氏によれば、「シコクヒメハナカミリの調査でカツラのひこばえの見回りを続けていたところ、目の高さで静止している個体をネットインすることができた。また、同所で過去に蜘蛛の巢にかかっている本種を得たことがある。未確認であるが、扇ノ山において複数のムナクホハナカミリを媒屋さんが採集しているが未発表と思われる。」とのことである。

記録の報告を委ねられた田中勇氏にお礼を申し上げる。

(TANAKA KINORU 西宮市六軒町8-7)